



小学6年生のキャプテン
あつき
鳥居篤希くん
小学4年生から所属し、今は6年生チームのキャプテンを務めています。「勝ってみんなで喜べることが嬉しい。ポジションはショートで、守備をもっと上手くなりたい!」

小学5年生のキャプテン
るき
佐藤琉稀くん
前に所属していたチームでは教えてもらえたことも学んでいるそう。「新チームでもそのままキャプテンになる予定なので、チームをまとめて勝ちたい!」

中小田井JBCで一緒に野球しよう!!

活動内容/軟式少年野球小学生の部
活動日/土・日・祝日9:00~日没(試合などにより変動あり)
低学年は土曜日午前のみ
練習場所/中小田井小学校ほか
入団資格/小学校5年生以下の児童
团費(月謝)/2000円/月、1~3年生は1000円/月※別途後援会費500円/月

体験入団も行っています。
事前に下記までメールにて連絡を。
メールアドレス: nakaotai_jbc@yahoo.co.jp
活動状況などはこちらのサイトをチェック
<http://51.xmbs.jp/naakaotajbc/>

**子どもの成長を感じた
保護者からも感謝の声が**

中小田井JBCは「楽しく、元気に一生懸命」をテーマに活動しています。ただ楽しむといっても組織の中で忘れてはいけないことを身につけるのが大前提です。「少年野球ではよく、練習中も声を出そうといわれますが、たたかずだけではなく、理解してもらわなくてはいけないと考えています」

中小田井JBCでは、子どもたちの野球を通じた成長を願う保護者がいました。

野中監督は香川県出身で、高校時代に野球を経験しましたが、社会人になってからは草野球を楽しむ程度。そんな監督がチームを設立しようと考えたのは、わが子の存在があつたそうです。「中小田井小学校に息子が2人通っていますが、上の子が入学するとき、チームの設立を決意しました。上の子は内気な性格で、ひとつでも何か自信を持つてもらいたいと、それまで野球を教えていた息子に小学校に入つてからも野球を続けて欲しくて、チームを作ろうと思ったのです。でも、監督になつたら、息子だけじゃなく、どなつともかわいいですよ」と目を細めます。「子どもも勝つたら嬉しくて、負けたら悔しい。大人よりも考え方方はシンプルです。そんな子どもたちと向き合いながら、大人の考えを押しつけてはいけないと思つて、それでいて大人と素直に話ができる挨拶がきちんとできる子になつてほしいと願っています」

監督は「私がネットに上げていたチームの日記をさぼっていたら、ある保護者から、もつとたくさん書いて下さいと書き込みをもらいました。その方は、息子さんがチームに入った当初は、平日は仕事、休みの日は子どもの野球で大変だなあとと思う時期もあつたそうです。しかし、卒団して思えば、子どもがちゃんと挨拶する子になつて素晴らしいと思い、だからこそ卒団してもクラブの様子が気になつてるので日記を書いてくださいました」と、保護者の理解に感謝の気持ちを示します。

負けたら泣いて、勝つたら喜ぶ:子どもと同じように感情をむき出します。ただし、楽しむといつても、組織の中でも忘れてはいけないことを身につけるのが大前提です。「少年野球ではよく、練習中も声を出そうといわれますが、たたかずだけではなく、理解してもらわなくてはいけないと考えています」

「私は試合で相手の監督が子どもと会話をしているのを見ています。子どもと監督がたくさん話しているチームは強いです」と話します。そして「ある少年野球の監督から、下手な子を上手くしてこそ優れた監督だとと言わされ、心がしました。上手な子どもだけで試合をしても、意味がない。すべての子どもが野球を好きになつて卒してくれるように気を付けています」



保護者で監督の妻でもある野中春菜さん(左)。「主人が監督になり我が家の生活も180度変わりました。最初は家族の時間も欲しいな…と思いましたが、野球を通じて自信をつけた子どもの成長を見て以来、私も全力で応援しています」鳥居美奈子さん(右)6年生のキャプテンを務める篤希くんのお母さん。「中小田井JBCでの活動を通じて、仲間を大事にして思いやりが持てる、そして挨拶ができる子どもになってくれました」

イチロー選手が上位チームにメダルをかけてくれるので、ぜひそれを味わわせてやりたい。



野球は試合が勉強の場。練習では基礎を反復練習するというが野中監督の方針。コーチ、保護者の見守るなか、子どもたちはランニングやキャッチボール、バッティング練習を大きな掛け声とともに繰り返していました

イチロー杯争奪学童軟式野球大会の優勝を目指す

中小田井 ジュニアベースボールクラブ

巻頭特集

NAKAOTAI JUNIOR BASEBALL CLUB

中小田井学区の小学生を中心に

44名の子どもたちが所属する中小田井ジュニアベースボールクラブ。

「楽しく、元気に、一生懸命」をテーマに掲げ、監督やコーチと保護者が一丸となって子どもたちをバックアップしています。

温かなまなざして導く監督と、寒空の下でも元気いっぱい白球を追う子どもたちを訪ねました。

文／南部武寛 写真／D-Studio デザイン／ウイリング

息子の入学を機に チーム設立を決意

2008年に中小田井学区、教育委員会、中小田井自治会などの協力により設立された中小田井JBC(ジュニアベースボールクラブ)。現在、44人の小学生が在籍しており、名古屋市のまちづくり推進委員が推進するスポーツ少年団に登録し、さまざまな大会に出場しています。名古屋市の大会では、4年生以下のチームが優勝。6年生以下が3位と素晴らしい成績を収め、強豪チームと呼ぶに相応しい活躍を見せています。このクラブを立ち上げたのは、監督を務める野中朋徳さん。「個人の私がチームを作るためには自治会など行政のバックアップが不可欠とを考え、スポーツ少年団に登録すること

になりました。そのためにも地域に根付いた活動は必須でした」という野中監督の想い通り、クラブにとって自治会や小学校からのバックアップは欠かせないものになつています。たとえば中学生の練習場所となるグラウンドや体育館を貸し出し、自治会は用品などを提供してくれています。昨年はグラウンドを整備するトンボを新調してもらいました。



野中朋徳監督



取材の合間に子どもたちに冗談を言って場を和ませる野中監督。子どもたちと真正面から向き合う姿が印象的でした。これまでの活動で野球の指導者としても学ぶことが多いかったです

チームに在籍する子どもたちの割が、2012年からは他学区からの受け入れも行っています。興味を持った子どもたち、保護者の皆さんばかりで練習体験に参加してみてはいい